

溶接ヒューム規制へ対応

群馬県鐵構業(協)

3月9日、前橋市・群馬産業技術センターにおいて、「溶接ヒューム規制への対応について」をテーマに講習会を開催した。

講師は、株式会社ミツバ環境ソリューション分析測定部係長の高田貴氏。

はじめに、高田氏は本年4月1日から施行される労働安全衛生法等の改正概要について説明。この改正では、金属アーク溶接等の作業時に発生する有害物質「溶接ヒューム」が、作業従事者への健

康障害のリスクを高めると認められて特定化学物質(第2類物質)に追加され、新たな対策が義務付けられたと解説。



PowerPointを用いて、分かりやすく説明

その中で、法定義務として追加されたことは、①屋内作業場での空气中の溶接ヒューム濃度の測定、②作業従事者の健康診断の実施、③作業主任者技能講習修了者の中から作業主任者を選任、④全体換気装置による換気の実施、⑤呼吸用保護具の着用等であると説明。

最後に「これらの対策の一部は令和4年3月31日まで経過措置を設けているが、作業従事者の健康障害の防止のため、早急に取り組んでもらいたい」と述べ、講演を締めた。

なお、講習後、多くの組合員が

溶接ヒュームの濃度測定を依頼し、さつそく対応に努めている。

SDGsについて学ぶ

桐生市末広町商店街(振)

3月9日、桐生市・桐生商工会議所会館において、「SDGsとは」カードゲーム『2030SDGs』を通じて学ぶ商店街とSDGs」をテーマに講習会を開催した。



講師の神部安希子氏

講師は、株式会社ミツバ環境ソリューションの神部安希子氏。

神部氏は、SDGsとは2015年の国連サミットで採択された国際目標であり、17のゴールと169のターゲットが設定され、誰も置き去りにしないを理念

に2030年までに達成することを目指すものと紹介。

次いで、カードゲーム「2030SDGs」のルール説明後、受講者は二人一組のチームとなり、SDGsの目標である17のゴール実現を目指し、2030年がどのような世界になるのかをゲームを通して体験した。

最後に、商店街におけるSDGsの取り組み事例を紹介し、「文化」「環境」「社会」「経済」「平和」などをキーワードに、身近なところから持続可能な社会を目指すアクションを起こすことが、SDGsに沿ったまちづくりや経済発展に繋がっていく」とアドバイスし、講習会を締めくくった。



カードゲーム「2030SDGs」を体験